

AR技術をNW運用に 応用してみた



OKIT

鄒 曉明





- 名前
 - 鄒 曉明 (スウ キョウメイ)
- 所属
 - 株式会社オキット
- 業種
 - プログラマーもどき (最近インフラも少々)



- ミスを何がなんでも避けなければならない
- **必ずしも分かっている人が現場に入れるわけでは無い**
- 様々な手間
 - ネットワーク機器の設定確認
 - ケーブルと顧客の紐付け
 - アップリンク・ダウンリンクの確認
- 確認手段
 - タブレット
 - 遠隔のネットワークオペレーターとの連携
 - トラフィックモニタリング



- 現場の配線作業の品質を高める
- ミスを減らす
- 作業時間の高効率化を実現する



ほぼ無操作で
ネットワーク情報が
可視化される



ARデモ



- ARとは、「物理」と「論理」を「重ねて」画面に映す
 - 「物理ポート」と「設定情報」を「紐づけれる」
- AR画面を見ながら両手で配線作業できる
- 情報収集と情報提示の半自動化を実現している



- GOOD:
 - 「物理インターフェイスと顧客情報の紐づけが自動化され、ほぼ無操作で可視化されるのが良い」
 - 「配線作業前後の確認のやくに立ちそう」
 - 「ポテンシャルは間違いなくある」
- BAD:
 - 「カメラが持ち込み禁止のデータセンターもある」
 - 「インターネット接続が前提のARアプリは、使える場所が限られる」
 - 「ユーザビリティがまだまだ全然ダメ」



- 機能追加
 - 遠隔からの指示をARで可視化
 - 手順書などの情報も提示
 - NW可視化項目の増加
- ユーザビリティ向上
 - ヘッドセットの重さをなんとかする
 - メガネとの共存
 - 音声認識の精度向上
- セキュリティ面も考慮
 - カメラが禁止されている場所にも対応
 - 通信の暗号化